

表 2-27 公共下水道事業・経営比較分析表(令和元年度)

鹿児島県 いちき串木野市

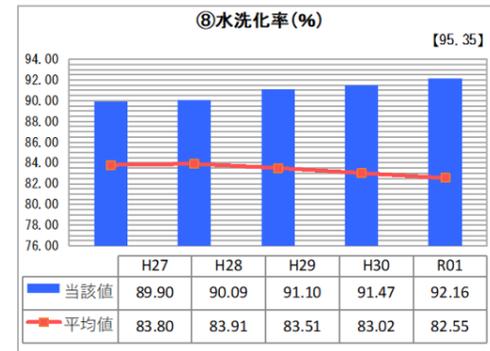
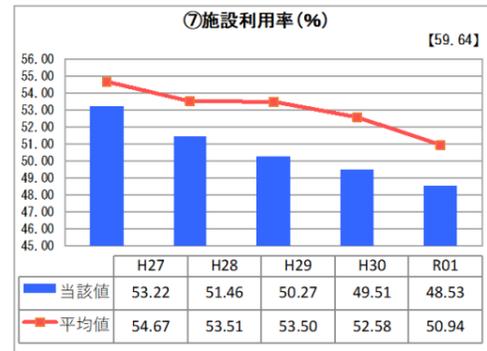
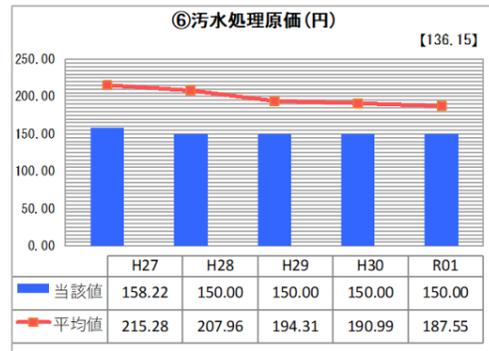
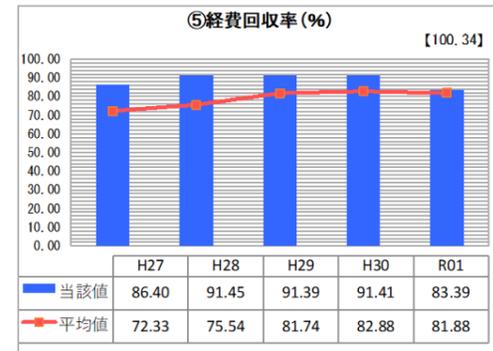
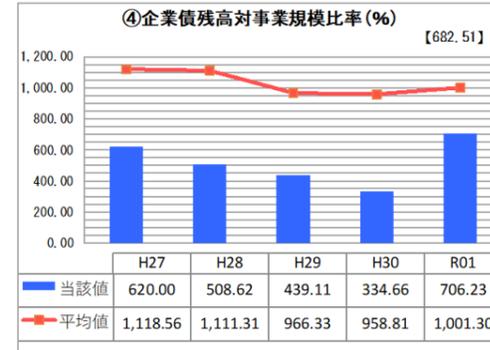
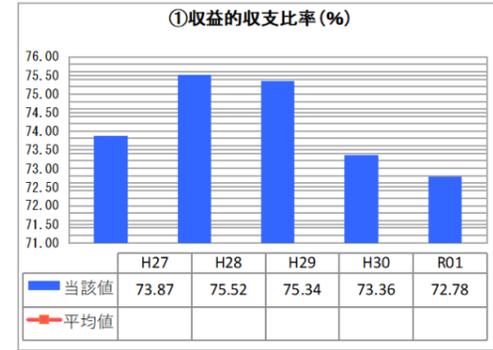
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	36.96	97.40	2,247

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,725	112.29	246.91
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
10,155	3.24	3,134.26

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
比率が下がった要因は、隔月検針導入により移行調整として一月分の使用料請求を行わなかったことや、公営企業会計移行に伴う打ち切り決算による使用料収入の減が大きく影響している。また収益には一般会計からの繰入金も含まれることから、今後は使用料の見直しを行い、経営改善を図る必要がある。

④企業債残高対事業規模比率
比率が上がった要因は、毎年償還が終了するものが発生し、借入見込額に対し償還額の方が多いため企業債残高が減少している傾向ではあるが、隔月検針導入及び打ち切り決算による使用料収入の減が大きく影響している。

⑤経費回収率
類似団体平均値と比較すると上回っているが、使用料の見直しを行い健全化に努める。

⑥汚水処理原価
類似団体平均値より下回っているが、維持管理費の削減に努める一方で、未接続世帯への周知を図る必要がある。

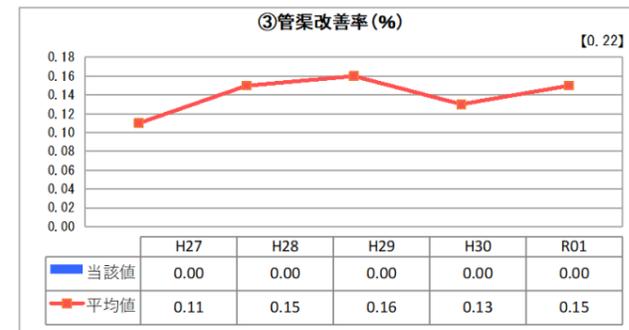
⑦施設利用率
人口減少等に伴い一日平均流入汚水量が減少している。今後、工業団地に企業が進出する予定ではあるが、未接続世帯については下水道接続の個別訪問等を行う必要がある。

⑧水洗化率

2. 老朽化の状況について

平成4年度に供用開始し28年程経過しており、処理場施設については、現在、長寿命化事業により更新を行っている。
今後は管渠、マンホール蓋を含む下水道施設全体の長寿命化を図るためのストックマネジメント事業により改良等を実施する予定である。

2. 老朽化の状況



全体総括

今後、経営状況を把握し、処理場及び管渠等の下水道施設全体の計画的な更新、使用料の見直し等により健全な運営に努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。